

2022年度 第4回 JSSR プロジェクト委員会 議事録

日時:2022年12月19日(月)20時から21時(Web開催)

(参加者、敬称略):

担当理事:橋爪洋、委員長:海渡貴司、副委員長:宮腰尚久

委員:折田純久、今城靖明、宮城正行、今釜史郎、寺井秀富、若尾典充、森幹士、手束文威、大和雄、渡邊慶、中島宏彰、宮崎正志、高畑雅彦、八木満、長田圭司、後藤励

オブザーバー:波呂浩孝、松山幸弘、伊藤研悠、粕川雄司、松倉遊

(欠席者、敬称略): 室谷健太、吉井俊貴

議事内容

1. 橋爪担当理事のご挨拶
2. 波呂理事長より新規プロジェクト研究に関するご発言
JOA 脊椎関連の診療ガイドラインの CQ に資するエビデンスを提供する新プロジェクト研究実施についてのお考えを説明いただいた。
3. 宮腰副委員長より、新規プロジェクト研究案について
新プロジェクト研究の内容について、各診療ガイドライン委員長よりテーマを提供いただき、まずプロジェクトを完結させ成果を出すために実現可能性が高い、「頸髄症術後の頸椎カラーの有用性」に関する研究を提案いただく。ガイドライン (GL) 委員先生を中心としたグループにプロジェクト委員会から任意で研究参加施設を募り、WG を形成する形で研究を進めることに異論はなかった。高畑委員より、GL の推奨度を決定する際に、COI が問題とならないかのご意見があった。波呂理事長より、GL 委員メンバーは次回である程度変更されることが予想され推奨度決定に大きな影響はないかのご意見をいただいた。
4. インセンティブに関する理事会審議結果の報告 (海渡)
研究協力医師個人を対象としたものではなく、研究参画施設が研究を円滑に実施できる体制を支援するための学会補助を申請する形式で検討することとなった。波呂理事長、松山前理事長、橋爪委員長より、インセンティブのあり方および今後の対応についてご発言をいただいた。
5. 登録終了プロジェクト研究 データ収集・登録状況:解析方法等ロードマップ
 - 腰曲がりに対する運動療法: (寺井委員)
現在1年 f/u 完了症例が100例弱、全例 f/u 終了は2023年秋頃であり、その後に解析を開始する予定を報告いただいた。
 - 頸肩腕症に対する薬物治療 (若尾委員)
3ヵ月までのデータ収集が310例、3-6ヵ月までのデータ収集が248例で完了し

順調に進行している。2023年2月中旬にデータベース完成を予定している。2023年JSSRでの中間解析報告を予定しており、次回プロジェクト委員会で一部資料を報告いただくこととなった。

6. 登録中プロジェクト研究

- 1度すべりに対する除圧 vs 固定術（八木委員）
症例登録は順調に進んでおり、2023年12月で1年f/uが100例を超える予定であり、その時期に後藤委員と解析に必要な症例数の再検討を実施する予定であることを報告いただいた。
- 成人脊柱変形に対する手術治療（大和委員）
症例登録は月8-10程度で推移している。登録期間を1年延長したが、半年の延長で目標症例に到達する予定であることを報告いただいた。
- 腰曲がりに対する保存治療（長田委員）
症例登録数は再度鈍化しており、登録期間の延長を予定している。症例登録が少ない施設では、最低5症例の登録をいただきたいこと再度ご説明いただいた。
- 神経根ブロック研究（宮城委員）
研究の性質上ドロップアウトが多いが、ドロップアウトの転帰（追加ブロック、手術）も含めて解析を行う方針の説明をいただいた。

全研究に対して、各事務局より症例登録督促のアナウンスを定期的（頻繁）に研究参画施設に実施いただくこととなった。

7. 今後の予定

2023年3月頃（Web開催）